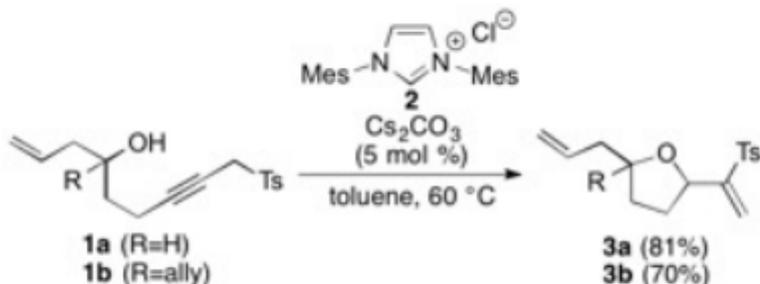


# 26C-am03S

NHC を用いるスルホニルアルキノールのスルホニル基転位を伴う環化反応  
山田 健一<sup>1</sup>, ○王 胤力<sup>1</sup>, Oriez RAPHAEL<sup>2</sup>, 山岡 庸介<sup>1</sup>, 高須 清誠<sup>1</sup> (<sup>1</sup>京大院薬, <sup>2</sup>微化研)

【目的】我々は、含窒素複素環カルベン (NHC) を用いるプロパルギルスルホン部位を有する第 1 級アルコールのスルホニル基転位を伴う環化反応を報告した<sup>1)</sup>。反応の基質適用範囲拡大を検討したので報告する。

【結果】カルベン前駆体 **2** と炭酸セシウムのトルエン溶液に、第 2 級アルコール **1a** を室温で加えて、60 °C に昇温した後数時間撹拌したところ、テトラヒドロフラン **3a** が 81 % 収率で得られた。第 3 級アルコール **1b** を用いても反応は良好に進行し、環化体 **3b** を 70 % 収率で与えた。



1) 第 134 回日本薬学会年会 28R-pm12 (2014, 熊本).